

音楽の捉え方は人それぞれ

小山実稚恵 — 151 ピアノと私

©Hideki Otsuka

先日ふとしたことからコンクール審査の話題になり、弦楽器プレイヤーの方から大変興味深い話をうかがいました。あるコンクールの本選の課題曲はオーケストラとの任意のコンチェルトだったそうなのですが、審査員たちの採点が完全に割れたそうです。それが、ピアノリストやピアノの先生たちの採点と、指揮者やコンサートマスターなどピアノ以外の奏者との点数が、ほとんど逆だったとのこと。その話を聞きながら、それは大いにありそうな話だと思いました。

審査の際に、どんなところを聴いて、何をどう評価するか、その点で両者の視点には大きな違いがでるのではないかと以前から私は思っていたからです。

そして、私の恩師（高校から大学院卒業まで師事した）の田村宏先生のご著書『ある長老ピアニストのひとりごと』に書かれていたコンクール審査のことについての文章を思い出しました。

ご著書は、田村先生がご存命のころに出版された自叙伝のような本ですから、おそらく50年以上も

前のコンクールのことだと思うのですが、結局、昔も今も同じようなことが起こっているのだということがわかります。その時のコンクールの審査員は、ピアニストであり指導者の田村先生と井口秋子先生、そして評論家の野村光一先生という、凄いいメンバー3人だったそうです。ところが、その審査結果は、野村光一先生が上位につけた演奏者と、田村先生と井口先生お2人の評価がまったく逆だったそうです。結果は2対1で田村先生たちがつけた順位で決まりましたが、結果の後に、野村先生はこう言われたそうです。

「私はピアニストではないのである。あなたのように曲中の細かい楽譜上のことはわからない。しかし、あらゆる分野でのすばらしい演奏をあなたの方より数多く聴いていますよ」。野村先生の言葉のあとに、田村先生は「含蓄深い教訓であっ

公演情報

トリトン晴れた海のオーケストラ
第19回演奏会

10月24日(土) 14:00

第一生命ホール

モーツァルト：ピアノ協奏曲第27番

ベートーヴェン：交響曲第7番

問い合わせ：トリトンアーツ チケットデスク

☎03-3532-5702

小山実稚恵 サントリーホール・
シリーズⅡ 2026-27

Recital (未来永劫) 第2回

10月29日(木) 19:00

サントリーホール 大ホール

シューベルト：

ピアノ・ソナタ第19番

ピアノ・ソナタ第20番

ピアノ・ソナタ第21番

問い合わせ：サントリーホールチケットセンター

☎0570-55-0017

名古屋フィルハーモニー交響楽団
スペシャル・クワトロⅢ

〈コバケン・スペシャル〉

11月19日(木) 18:45

愛知県芸術劇場 コンサートホール

指揮：小林研一郎

モーツァルト：ピアノ協奏曲第20番

サン＝サーンス：交響曲第3番 ハ短調 Op.78

「オルガン付」

問い合わせ：名古屋フィル・チケットガイド

☎052-339-5666

た」と書いていらつしやいました。

今回、似たような話題を耳にして、ピアニストの目線から評価する演奏はどうなのだろうとか、少なくともコンチェルトの場合なら、聴く側はピアノを弾く人だけではないはず。多くの聴き手は総合的な響きをひとつの音楽として捉えて聴いているはず。もちろん楽譜の細部の読み込みは絶対に必要ではあるけれど、やはり指揮者やコンサートマスターが総合的に感じ掴む音楽は、そういうものを超えたところにあるのではないかと強く思ったところです。

そもそも音楽を採点すること自体がナンセンスなこと。何が良く何が評価の対象になるかは人それぞれですし、個人の自由です。でも、だからこそ、ピアノという楽器を超えて音楽を弾ける日が来たらと、願いを込めてピアノを弾いています。

KOYAMA MICHIE 東京藝大卒、同大学院修了。1982年チャイコフスキー国際コンクール第3位。85年ショパン国際ピアノコンクール第4位。「12年間・24回リサイタルシリーズ」(2006～17年)や「ベートーヴェン、そして…」(19～21年)は、その演奏と企画性で高い評価を受けた。2022年より、サントリーホール・シリーズ「Concerto (以心伝心)」に続き、ソロ・リサイタルのシリーズ〈未来永劫〉を開催する。ショパン、チャイコフスキーの二大コンクールなどの審査員も務める。17年度紫綬褒章を受章。仙台での「こどもの夢ひろば」のゼネラル・プロデューサーを務める。